

新年を迎え、謹んで年頭のご挨拶を申し上げます

旧年中は当館の活動にひとかたならぬご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

昨年も当館にとっては、皆さまからのご支援によるデジタル化推進の年でありました。第5弾の支援募集プロジェクトでは、平成28年度の図書館事業費の一部と共に、明治から大正期の歌舞伎に関する「組上燈籠絵(くみあげどうろうえ)」161枚をデジタル化するための資金、及び厳選3作品の復刻版印刷のための費用を募集しました。そして50日間の募集期間で164名の支援者の皆様からの温かい応援と共に278万円のご支援を頂き、プロジェクトを無事成立させる事が出来ました。「組上燈籠絵」は昨年中にデジタル撮影を終え、次のステップとして、本年は復刻版印刷、そしてデジタルアーカイブの公開へと作業を進めて参ります。また、クラウドファンディング第4弾のご支援でデジタル化を行った「GHQ 検閲歌舞伎台本」のデジタルアーカイブも昨年10月にはWeb公開する事が出来ました。そして、第3弾のご支援でデジタル化を行った「芝居番付」のアーカイブも目録化を進め、本年は公開数を大幅に増やしたいと考えています。皆様の思いと支えを拠り所として、さらに充実した演劇と映画の専門図書館を目指し、これからもスタッフ一同努力してまいります。

本年も当館の活動にご理解・ご協力・ご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

松竹大谷図書館 職員一同

≫≫ お知らせ

第45回平成28年度「大谷竹次郎賞」は選考の結果、
該当作品なしと決定いたしましたので、ご報告申し上げます。

<「大谷竹次郎賞」とは>

本賞は、毎年1月より12月までの公演で、松竹系のみならず、歌舞伎俳優によって上演された新作の歌舞伎及び歌舞伎舞踊の脚本を対象とし、娯楽性に富んだ優れた歌舞伎脚本に贈る賞です。昭和47年2月14日から始まり、今年で45回目を迎えました。毎年、大谷竹次郎(松竹株式会社創業者のひとり)の誕生日、12月13日にあわせて発表しており、該当作がない場合、佳作や奨励賞(新人対象)を贈る場合もあります。当館からは副賞として受賞者に松竹大谷図書館賞の記念レリーフ(荒川明照氏作)を贈呈しています。

この10年の受賞作は、齋藤雅文氏「竜馬がゆく 立志篇」(第36回平成19年度)、今井豊茂氏「新作 陰陽師 滝夜叉姫」(第42回平成25年度)、川崎哲男氏・松岡亮氏「壽三升景清」(第43回平成26年度)、今井豊茂氏「あらしのよるに」・横内謙介氏「スーパー歌舞伎Ⅱ ワンピース」(第44回平成27年度)です。これらの受賞作の台本は当館に保存されており、一般公開しておりますので、どなたでもご覧いただくことが出来ます。

■ 松竹系 12月 演劇公演資料 ■

○ …… 受入済み

劇場	演目	台本	スチール	プログラム	ポスター
歌舞伎座	『あらしのよるに』	○			
	『吹雪峠』	○			
	『菅原伝授手習鑑 寺子屋』	○		○	○
	『二人椀久』				
	『京鹿子娘五人道成寺』	○			
新橋演舞場	『華の天保六花撰 どうせ散るなら』	○		○	○
	『シアターコンサート《昼・夜別構成》』				
先斗町歌舞練場	『源平布引滝 実盛物語』	○			
	『仮名手本忠臣蔵 道行旅路の嫁入』				
	『菅原伝授手習鑑 車引』	○			
	『夕霧伊左衛門 廓文章』	○		○	○
	『三升曲輪傘売』	○			
	『双蝶々曲輪日記 引窓』	○			
松竹座(大阪)	『関西ジャニーズJr. X'masSHOW2016』				

[ポスター閲覧ご希望の際は事前に御予約をお願いいたします]

■ 他社演劇公演資料 ■

赤坂RED/THEATER	12月	WAKUプロデュース『イエローサブマリン』プログラム
上野ストアハウス	11月	『日韓演劇週間No. 4』プログラム
吉祥寺シアター	11月	演劇集団円『景清』プログラム、台本
紀伊國屋ホール	11月	文学座『越前竹人形』プログラム
大阪新歌舞伎座	11月	『鱈々』プログラム
	12月	『神野美伽特別公演 松竹新喜劇参加』プログラム、台本
劇団俳優座稽古場	11月	劇団俳優座『常陸坊海尊』プログラム
国立劇場小劇場	11月	『創造する雅楽』プログラム 『舞の会』プログラム
国立劇場大劇場	12月	『仮名手本忠臣蔵 第三部』プログラム
国立文楽劇場	12月	『文楽公演』プログラム、床本
ザ・スズナリ	11月	月影番外地『どどめ雪』プログラム
シアタークリエ	11月	『ミュージカル貴婦人の訪問』プログラム
シアターグリーン	12月	Yukar Productions『THROWN』プログラム
下北沢駅前劇場	11月	げんこつ団『四半世紀の大失態』プログラム
下北沢小劇場B1	11月	糸あやつり一糸座『長靴をはいた牡猫』プログラム
新宿FACE	12月	城山羊の会『自己紹介読本』プログラム
SPACE雑遊	11月	JACROW『夕闇、山を越える』プログラム
東京芸術劇場シアターイースト	11月	ONEOR8『さようならば、いざ』プログラム トム・プロジェクト『挽歌』プログラム
東京芸術劇場シアターウエスト	12月	あやめ十八番『霓裳羽衣』プログラム
東京芸術劇場シアターイースト	12月	東京マハロ『紅をさす』プログラム
東京芸術劇場プレイハウス	12月	日本・シンガポール・インドネシア国際共同制作『三代目、りちゃあど』 プログラム
中野スタジオあくとれ	12月	龍昇企画『甘い傷』プログラム
日生劇場	12月	『プリシラ』プログラム
三越劇場	12月	『SOETSU韓くのにの白き太陽』プログラム、台本

(新着資料案内 他社演劇公演資料 続き)

俳優座劇場 1 1 月 俳優座劇場プロデュース『ハーヴェイ』プログラム、台本
 本多劇場 1 1 月 加藤健一事務所『誰も喋ってはならぬ!』プログラム
 1 2 月 直人と倉持の会『磁場』プログラム

■ 映画資料 ■

○ …… 受入済み

タイトル	プログラム	プレス	ポスター	スチール写真	台本
『ブラック・ファイル 野心の代償』	○				

[ポスター閲覧ご希望の際は事前に御予約をお願いいたします]

■ 映画プログラム ■

『変態だ』 『ヒッチコック／トリュフォー』
 『モンスターストライク THE MOVIE はじまりの場所へ』
 『バイオハザード：ザ・ファイナル』 『映画『バイオハザード』全記録』

■ 演劇雑誌 ■

『Confetti』2017年 JANUARY 『国立演芸場公演ガイド』平成29年1月号
 『あぜくら』2016年12月号 『大向う』平成29年1月号,1月号増刊号
 『シアターガイド』2017年2月号 『伝統文化新聞』2016年(127号)
 『ステージぴあ』2016年11+12月号 『日本演劇興行協会会報』2016年(51号)
 『テアトロ』2016年12月号臨時増刊号俳優・ 『日本芸術文化振興会ニュース』平成29年1月号
 タレント養成ガイド2017年度版 『日本照明家協会誌』2016年12月号
 『ラ・アルプ』2017年1月号 『日本舞踊』69巻1月号
 『演劇界』2017年2月号 『悲劇喜劇』2017年1月号
 『京都芸術劇場ニューズレター』 『邦楽の友』平成29年1月号
 2016年12月-2017年4月号 『名古屋芸能文化』平成28年(26号)
 『芸劇BUZZ』2017年1月-2月-3月号

■ 映画雑誌 ■

『FLIX』2017年2月号 『シナリオ教室』2017年1月号
 『NFCカレンダー』2017年1月号 『ドラマ』2017年1月号
 『NFCニューズレター』2016年12月-2017年1月号 『ピクトアップ』2017年2月号
 『SCREEN』2017年2月号 『ムービー・スター』2017年2月号
 『omoshii mag オモシイ・マガ』 『映画テレビ技術』2017年1月号
 Vol.1-Vol.7 『映画秘宝』2017年2月号
 『エキブ・ド・シネマ』2016年No.213 『衛星劇場プログラムガイド』2017年1月号
 『キネマ旬報』2017年1月上旬号,1月下旬号 『黒澤明研究会誌』2016年36号
 『シナリオ』2017年2月号 『日経エンタテインメント!』2017年1月号

■ 書 籍 ■

『森本ジュンジ戯曲コレクション 赤のリース』	森本ジュンジ (著)	ブイツーソリューション
『浅草の勘三郎 夢は叶う、平成中村座の軌跡』 荒井修 (著)	藤井恵子 (構成)、矢野文子 (編集)	小学館
『十八代目中村勘三郎全軌跡』	中川右介 (編著)	朝日新聞出版
『猿の眼 僕ノ愛スル器たち』	市川猿之助 - 4世 (著)	淡交社
『猿之助、比叡山に千日回峰行者を訪ねる』	市川猿之助 - 4世 + 光永圓道 (著)	春秋社
『中村勘三郎物語 継がれゆく情熱と家族の絆』	生島淳 (構成)、塚田圭一 (監修)	扶桑社
『ありがとう、お父さん 市川團十郎の娘より』	市川ぼたん (著)	扶桑社
『入選作品集 平成二十五・二十六年度』	国立劇場制作部歌舞伎課 (編)	日本芸術文化振興会
『日本劇映画作品目録 平成26年』	日本映画製作者連盟	
『日本不良映画年代記』		洋泉社
『清張映画にかけた男たち 『張込み』から『砂の器』へ』	西村雄一郎 (著)	新潮社
『映画史を学ぶクリティカル・ワーズ 新装増補版』	村山匡一郎 (編)	フィルムアート社
『アンビリバブル!』	篠山紀信 (著)	講談社
『蜷川幸雄の稽古場から』	蜷川幸雄 [等] (著)	ポプラ社
『蜷川幸雄の仕事』	蜷川幸雄 + 山口宏子 (著)	新潮社
『まあいいか』	大竹しのぶ (著)	朝日新聞出版
『全身女優 私たちの森光子』	小松成美 (著)	KADOKAWA
『女優魂 森光子『放浪記』二〇一七回の記録』	篠山紀信 (撮影)	扶桑社
『ミュージカル俳優という仕事』	井上芳雄 (著)	日経BP社 (発行)

資料をご寄贈くださった方々 (敬称略・順不同 / 2016年10月～11月)

※許可を得た方のみ掲載しております

松竹株式会社、松竹ブロードキャスティング株式会社、シナリオ・センター、株式会社日本舞踊社、劇団四季、関西・歌舞伎を愛する会、演劇出版社、キネマ旬報社、関西常磐津協会、フィルムセンター、公益社団法人日本照明家協会、文学座、(株)マルヨンプロダクション「シナリオ」編集部、東宝株式会社、銀座 博品館劇場、明治座、劇団青年座、日本映画テレビ技術協会、日本映画テレビプロデューサー協会、国立劇場、一般社団法人日本民間放送連盟、無声映画鑑賞会、新歌舞伎座、俳優座劇場、博多座、東京都江戸東京博物館、国立歴史民俗博物館、名取事務所、デアゴスティーニ・ジャパン、株式会社カモミール社テアトロ編集部、人形劇団ブーク、ロングランプランニング株式会社、黒澤明研究会会誌、流山児★事務所、テアトル・エコー、中央区郷土天文館 (タイムドーム明石)、伝統文化新聞、株式会社パルコ、若林さだ吉、(株)近代映画社、調布市武者小路実篤記念館、シアタークリエ、加藤健一事務所、岡本和宜、栗原完爾、おもだか会、銀座百店会、邦楽の友社、オフィス ホエイ、桜井修、劇団ワンツーワークス、国文学研究資料館、可児市文化芸術振興財団、劇団民藝、帝国劇場、前進座、劇団俳優座、御園座、一般社団法人 日本劇場技術者連盟、齋藤譲一、株式会社ヴィレッヂ、こまつ座、公益財団法人ユニジャパン東京国際映画祭事務局、日本近代文学館、株式会社 吉川弘文館、劇団昴、映画論叢、日本映画撮影監督協会、アーティストジャパン、時代考証学会、劇団若獅子、(株)劇団絵生、劇団銅鑼、劇団1980

どうもありがとうございました

第 62 回所蔵資料展示 「女優 山田五十鈴」 展

展示期間:2017 年 1 月 11 日~3 月 1 日/於 閲覧室

今回は、本年 2 月に生誕 100 年を迎える女優、山田五十鈴の資料を展示します。

山田五十鈴は大正 6[1917]年 2 月 5 日に大阪で、新派女形の山田九州男の娘として生まれました。本名は山田美津といい、母は大阪の芸者でした。6 歳より常磐津、長唄、清元、踊りの稽古を始め、後に本格的に清元に取り組み、10 歳で梅美智という名をもらい名取となります。父が旧知の日活太秦撮影所長を訪ねたことにより、昭和 5[1930]年日活太秦撮影所に 13 歳で入社。同年『剣を越えて』で大河内傳次郎の相手役として華々しくデビューします。昭和 10[1935]年第一映画に転じ、同年 8 月には東京劇場の「新派精鋭男女優合同出演」で初舞台を踏み、そして翌年の溝口健二監督の名作『浪華悲歌』『祇園の姉妹』でヒロインを演じ、以後もその美貌と確かな演技力で、戦前戦後を通して多くの名監督の作品に出演します。昭和 35[1960]年以降は舞台出演が増え、昭和 37[1962]年に東宝演劇部と専属契約。一方で新派にも客演するなど舞台での活躍は続き、初代水谷八重子、杉村春子と共に、演劇界で「女優の三絶」と呼ばれるようになります。昭和 62[1987]年にはファン投票により舞台の代表作「山田五十鈴十種」が選定されました。平成 5[1993]年文化功労者に選出、平成 12[2000]年文化勲章を受章。平成 24[2012]年 7 月 9 日没、95 歳でした。「ベルさん」の愛称で親しまれ、その長年にわたっての活躍がまさに演劇・映画の歴史ともいえる、往年の大女優の多彩な資料をご覧ください。ご本人寄贈のスクラップブックも展示しております。



プログラム[左]昭和 10 年 8 月東京劇場 [右]昭和 21 年 10 月有楽座

【展示資料一覧】

《展示ケース上段》

映画『孔雀姫』昭和 6[1931]年日活太秦 ●スチール写真[山田五十鈴]/監督:清瀬英次郎/脚本:八尋諒+八森重芳/原作:斎藤晃/共演:常盤操子 光岡竜三郎 金平軍之助/写真裏に「第一回主演」と鉛筆で記載あり。

映画『金色夜叉』昭和 8[1933]年日活太秦 ●『新宿帝都座』No.136 当時新宿帝都座で無料配布されたプログラム/監督:青山三郎/脚本:村上徳三郎/原作:尾崎紅葉/共演:鈴木傳明 高木永二 伊達里子

演劇『新派精鋭男女優合同出演 夏川大二郎 山田五十鈴 特別加入』昭和 10[1935]年 8 月東京劇場 ●舞台写真『有罪無罪』左:山田五十鈴 右:武村新 ●プログラム/『私のあなた』(中野実作)『有罪無罪』(川口松太郎作)の 2 作品で初舞台を踏む。新派女形の父山田九州男も出演している。

映画『浪華悲歌』昭和 11[1936]年第一映画社 ●スチール写真[山田五十鈴]/監督+原作:溝口健二/脚本:依田義賢/共演:梅村蓉子 大倉千代子 浅香新八郎

映画『祇園の姉妹』昭和 11[1936]年第一映画社 ●スチール写真[山田五十鈴]/監督+原作:溝口健二 脚本:依田義賢/共演:梅村蓉子 志我廻家弁慶 久野和子

映画『歌行燈』昭和 18[1943]年東宝映画 ●『朝日座』広告/監督:成瀬巳喜男/脚本:久保田万太郎/原作:泉鏡花/共演:花柳草太郎 柳永二郎 大矢市次郎

映画『影法師 寛永坂の決闘』昭和 25[1950]年松竹京都 ●スチール写真[左:山田五十鈴 右:阪東妻三郎]/監督:大曾根辰夫/脚本:鈴木兵吾/共演:阪東妻三郎 入江たか子 保瀬英二郎

映画『鞍馬天狗 角兵衛獅子』昭和 26[1951]年松竹京都 ●スチール写真[左より:山田五十鈴 嵐寛寿郎 美空ひばり]/監督:大曾根辰夫/脚本:八尋不二/原作:大佛次郎/共演:嵐寛寿郎 美空ひばり 月形龍之介

映画『青銅の基督』昭和 30[1955]年松竹京都 ●スチール写真[左:山田五十鈴 右:滝沢修]/監督:渋谷実/脚本:斎藤良輔/原作:長与善郎/共演:岡田英次 滝沢修 香川京子

映画『京洛五人男』昭和 31[1956]年松竹京都 ●スチール写真[左:山田五十鈴 右:嵯峨三智子]/監督:大曾根辰夫/脚本:小国英雄/共演:高田浩吉 田村高廣 大河内傳次郎/娘の嵯峨三智子と共演した作品。

映画『流れる』昭和 31[1956]年東宝 ●スチール写真[左:杉村春子 右:山田五十鈴]/監督:成瀬巳喜男/脚色:田中澄江+井手俊郎/原作:幸田文/共演:田中絹代 高峰秀子 杉村春子

映画『東京暮色』昭和 32[1957]年松竹大船 ●スチール写真[左:山田五十鈴 右:中村伸郎]/監督+脚本:小津安二郎/脚本:野田高梧/共演:原節子 有馬稲子 笠智衆

《展示ケース下段》

演劇『新演伎座公演』昭和 21[1946]年 10 月有楽座 ●プログラム/山田五十鈴が長谷川一夫と昭和 17[1942]年 3 月に結成した新演伎座の終戦後第 1 回公演。9 月より公演が行われ、10 月は演目を 2 本差し替えて 6 日より公演を行ったが、日映演のゼネストのため 9 日間で中止された。(『昭和 22 年映畫・藝年鑑』より 時事通信社発行)

演劇『シラノ・ド・ベルジュラック』昭和 35[1960]年 10 月歌舞伎座 ●スチール写真[上:ロクサーヌ(山田五十鈴) 下左より:クリスチャン(安井昌二) シラノ(二代目尾上松緑)]

演劇『狐狸狐狸ばなし』昭和 36[1961]年 2 月東京宝塚劇場 ●スチール写真[左:伊之助(森繁久彌) 右:おきわ(山田五十鈴)]

演劇『たぬぎ』昭和 49[1974]年 11 月芸術座 ●スチール写真[左:朝寝坊むらく(日下武史) 右:立花家橘之助(山田五十鈴)]

『東宝』昭和 46[1971]年 9 月号 ●演劇雑誌/表紙は同年の帝国劇場 9 月公演『淀どの日記』の山田五十鈴。

演劇『近松物語』昭和 58[1983]年 11 月新橋演舞場 ●スチール写真[左:茂兵衛(二代目中村吉右衛門) 右:おさん(山田五十鈴)]/「山田九州男三十七回忌追善」と銘打たれた新派公演に特別参加。

演劇『鬼平犯科帳 血闘』平成 7[1995]年 3 月新橋演舞場 ●スチール写真[左:お里(山田五十鈴) 右:長谷川平蔵(二代目中村吉右衛門)]

演劇『香華』五〇〇回記念特別公演 昭和 61[1986]年 11 月南座 ●プログラム

映画『蜘蛛巣城』昭和 32[1957]年東宝 ●スクラップブック/監督+脚本:黒澤明/脚本:小国英雄+橋本忍+菊島隆三/共演:三船敏郎 志村喬 千秋実 山田五十鈴本人より寄贈されたスクラップブック。計 73 冊寄贈され、主に出演した作品毎に作成されており、スチール写真や記事等が貼り込まれている。展示頁の『蜘蛛巣城』のスクラップに貼られている写真は撮影風景のスナップで、山田五十鈴演じる浅茅が発狂し、空の手桶で手を洗おうとする場面。黒澤明監督の姿も写っている。

映画『必殺!』昭和 59[1984]年松竹+朝日放送 ●プログラム/監督:貞永方久/脚本:野上龍雄+吉田剛/共演:藤田まこと 中条きよし 片岡孝夫(十五代目片岡仁左衛門) 翌年公開の第 2 作『必殺!! ブラウン館の怪物たち』が最後の映画出演となる。

■ 公益財団法人松竹大谷図書館へのご支援のお願い ■

公益財団法人松竹大谷図書館は、演劇・映画の専門図書館である松竹大谷図書館を運営し、所蔵資料を広く一般に無料で公開して、芸術文化の振興と社会文化の向上発展に寄与することを目的とする事業を行っております。

当館の使命である、資料を収集・整理・保存・公開する図書館事業を確実かつ永続的に達成し、さらなる社会貢献をしていくために、寄附金を募っております。

公益認定を受けた財団法人への寄附金支出者は税制上の優遇措置が受けられます。

何卒、ご理解とご賛同をいただき、格別のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

● 現在ご支援いただいている方々（了承を得た方のみ掲載）

2016（平成28）年12月にご支援いただきました

法人・団体（50音順・敬称略）

株式会社歌舞伎座

歌舞伎座サービス株式会社

歌舞伎座舞台株式会社

松竹株式会社

松竹衣裳株式会社

株式会社松竹映像センター

松竹音楽出版株式会社

松竹芸能株式会社

株式会社松竹サービスネットワーク

松竹ブロードキャスティング株式会社

株式会社松竹マルチプレックスシアターズ

個人（50音順・敬称略）

谷本宗生

細矢夕工

どうもありがとうございます

● 公式 Facebook を始めました！ ●



昨年秋に、松竹大谷図書館の公式 Facebook を開設いたしました。
随時情報発信中です！

URL はこちらです ↓

<https://www.facebook.com/Shochikuotanitoshokan/>



■ 編集後記 ■
▼ 明けましておめでとうございませう。本年は11日から開館いたします。スタッフ一同、皆様のご来館をお待ちしております。本年も松竹大谷図書館をどうぞよろしくお願ひ申し上げます。
▼ 毎年、年末になりますと当館の入っているビルの1階に立派な鏡餅が設置されます。この鏡餅、なんとすべての材料が本物です。もちろん伊勢海老もです！ ちなみに海老を赤く着色する専門の人がいるそうです。この編集後記を書いている6日現在、まだ鏡餅は飾られていますが、鏡開きの際に片づけられるときには、はたしてこの立派な伊勢海老はどうなるのだろうか：と、とても気になっております…。



● 利用案内 ●
開館時間
平日午前10時～午後5時
休館日
土曜日、日曜日、祝祭日、毎月最終木曜日、5月1日、11月22日、年末年始、春期夏期特別整理期間
※その他、臨時休館のある場合は一ヶ月前から館内およびウェブサイトに掲示します。
閲覧 館内閲覧のみ
入館料 無料
● 交通案内 ●
東京メトロ日比谷線、都営地下鉄浅草線 東銀座駅5番出口より徒歩3分
東京メトロ有楽町線 新富町駅1番出口より徒歩8分

編集・発行 公益財団法人 松竹大谷図書館

〒104-0045 東京都中央区築地 1-13-1 銀座松竹スクエア3階 / TEL 03-5550-1694

公式 HP ● <http://www.shochiku.co.jp/shochiku-otani-toshokan/>

公式 Facebook ● <https://www.facebook.com/Shochikuotanitoshokan/>